

伝染性紅斑（リンゴ病）の感染が広がっています

全国的に伝染性紅斑（リンゴ病）の定点医療機関あたりの患者報告数が増加しており、本県でも、2025年第20週（5月12日～18日）が2.73人、第21週（5月19日～25日）が3.73人と、直近2週連続で過去10年間の最多を更新しています。

伝染性紅斑（リンゴ病）は小児に多くみられ、ほとんどは軽症で自然に回復しますが、妊婦の方が感染すると、胎児にも感染し、胎児水腫や流産などを引き起こす可能性があります。地域の流行情報に注意するとともに、感染の予防と拡大防止に努めていただきますようお願いいたします。

【県民の皆様へ】

- ◎ 基本的な感染予防対策
 - 咳エチケットの徹底（咳やくしゃみのしぶきで感染します）
 - 流水と石けんによる手洗い（アルコール消毒は効きにくいウイルスです）
- ◎ 特に注意が必要な方
 - 妊婦の方が感染すると、胎児にも感染し、胎児水腫や流産などを引き起こす可能性があります
- ◎ 感染拡大防止のために
 - 頬の発疹（紅斑）が現れる前の風邪のような症状の時期が、最も感染力が強い時期です
 - 一方、紅斑が現れる頃には、感染力はほとんどないと考えられています
 - 発熱や風邪症状がある場合は、安静にして周囲への感染に注意しましょう

【伝染性紅斑の患者報告数（定点医療機関あたり）】

	第16週 4/14～4/20	第17週 4/21～4/27	第18週 4/28～5/4	第19週 5/5～5/11	第20週 5/12～5/18	第21週 5/19～5/25
県	1.64	0.73	0.64	1.09	2.73	3.73
全国	1.25	1.30	1.16	1.14	2.05	1.97

伝染性紅斑とは

- ヒトパルボウイルスB19が原因となる感染症で、主に5～9歳の子どもに多くみられます。
- 約10～20日の潜伏期間の後、微熱や風邪症状が現れ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明の赤い発疹（紅斑）が出現します。
- 発疹は体や手足にも網目状・レース状に広がり、通常1週間程度で消失しますが、長引いたり、一度消えた後に再出現することもあります。
- 成人では関節痛や頭痛を伴うことがありますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。

【参考】

- 県内流行情報の詳細について（島根県感染症情報センターHP）
<https://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/kansen/dis/teiten/k606.htm>
- 伝染性紅斑について（厚生労働省HP）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/fifth_disease.html#h2_free7